

8 会議資料	<p>第2回次第</p> <p>資料1 第1回長岡市総合計画策定委員会における意見の集約</p> <p>資料2 長岡市の将来像の設定へ向けた検討</p> <p>資料3 現行の長岡市総合計画における将来像</p> <p>資料4 長岡市総合計画後期基本計画の主要施策の実施概要</p> <p>各資料については、別添のとおり</p>
9 審議の内容	
委員長	<p>それでは議題の長岡市の将来像の設定に向けた検討について、事務局から説明をお願いいたします。</p>
政策企画課長	<p>(資料1～4に基づき説明)</p>
委員長	<p>事務局の説明についてご意見・ご質問等ありましたらお願いいたします。</p>
委員	<p>次期総合計画の中に「たくましく」という言葉を入れてもらいたいです。若いお母さんを見ていると、最近の子どもは火を見て育っていなかったり、安心安全な場所で遊ばせたりしています。海は危険だとか、川は危険だというのが、危険も教えていかなければなりません。これからの子どもは生き延びる力もないとだめだと思います。火が起こせるなどといったことができる子にするために体験を通じて育てていくことが必要だと思います。毎年ヨットの体験乗船で、子どもを集めて、学校単位で体験してもらって、海は楽しいけど危ない面もある、というのを教えています。そういうことを知っていることもこれから重要になってくると思いますので、「たくましく」という言葉を入れてもらえるといいと思います。</p>
政策企画課長	<p>次期計画の中での表現の際に考慮していきたいと考えております。</p>
委員	<p>新聞に各合併地域の宝というのが一覧で載っていました。各地域で非常に議論されて宝として選ばれたと思います。せっかくそこまで作業が進んでおりますので、こういったものを将来的にどういう風に次期総合計画の中に結び付けて活かしていくかという観点を持ってもいいと思います。</p>
政策監	<p>11地域それぞれが持っているものを活かしつつ伸ばしつつ、11の地域の魅力を失わずに新しい長岡をつくっていくという非常に未来志向型で、なおかつ今ある宝をどう磨いていくかということはこの1年間考えたものと思います。おっしゃられるように、この総合計画の中で合併地域が見つけたして</p>

委員	<p>きた宝をどういう風に位置づけるか、人々が自分たちの暮らしはどうなるのかということできるだけイメージできるような結び付けを検討していきたいと思っております。</p> <p>「たくましく」を取り入れるという話を伺いまして、本当にそのとおりだと思っておりました。「いじめゼロ」という事業の推進委員長をしておりますが、その進め方は「いじめはゼロにすべきだ、あってはならない」という前提で組み立てております。ゼロにできるわけがないだろうと思ひ、でもそれを目標にしつつもそうならない現実の中で、どのようにたくましく生き抜いていくか、社会に出て、たくましくやっていける子どもを育てる取り組みを長岡市として行うと良いと思います。</p> <p>また「熱中！感動！夢づくり教育」について、素晴らしい取り組みだとは思いますが、子どもを感動させようとしているのに先生が熱中していなくて、義務的にやっている感じも失礼ながら感じられることがございます。資料4の右側に「働きやすいまち」とありますが、よい先生が正式に採用されていないという意見があります。正式に採用された先生が安定した職場にいて日々淡々と教師活動をされている一方、不安定な講師のほうが非常にダイナミックに子どもたちと向き合っている場合があります。企業が社員を採用してないのに外から派遣された社員に「うちの会社の方針はこうだ」といっても伝わらない、そのような感じが非常にしています。現実問題として不可能かもしれないが、長岡市が教育を前面に打ち出すのであれば、長岡市が教員を採用して欲しいです。テレビで複数の市町村による広域連合が独自で教員を採用しようとしている取組を見ました。長岡市が単独でできないのであれば近隣の市に呼びかけて、中越エリアの教育を担うという形で長岡市がもっと主体的に動いて子どもたちと向き合う、勉強を教えるのが上手ではなくて子どもたちの声をつかむのが上手であることを採用基準にするという仕組みを今後10年先に向けて築いていただければありがたいです。</p>
委員	<p>先ほど合併旧市町村の特長を活かすという話がありましたが、今日の資料を見て私が第一に感じたのは、旧市町村間の交流がどうしたら互いに成長できるのか、独自のものだけでなく共同でできることも目標にして欲しいということです。</p> <p>資料2の真ん中のところですが、全国市長会の出している人口減少対策にどういう施策があるのか見てみたのですが、ここに書いてあることはすべてそれでして、私には非常に後ろ向きに見えました。もっと産業の活性化を図る、強い長岡をつくるということを次期計画にしっかり盛り込んで欲しいと</p>

<p>政策監</p>	<p>というのが私の希望です。</p> <p>最後に質問ですが、長岡市は40万人都市構想を取りやめるのでしょうか。</p> <p>合併をする中で財政基盤を固めて都市間の競争力を高めるという時代の流れと求めるところは同じですが、40万人という数字にこだわるかどうかは時間をいただいて検討していきたいと思っております。</p> <p>また教育の意見についてですが、総合計画をつくるにあたって、目的を明確に書くべきではないかと市長が申しております。「熱中！感動！夢づくり教育」というのは、子どもたちが大人になって、自分たちはいったい何をやりたいのか、子どもたちの一番の気づきを目指してスタートしたものです。その目的をしっかりと意識することができるように、総合計画の中に目的を書き込むことを検討していきたいと考えております。</p>
<p>委員</p>	<p>私がなぜ東京から長岡に移り住んだかという、まさに「生きる力」「たくましさ」というものが長岡にあったからです。中越大震災で被災して本当に大変な中、それを乗り越えて強く生きている姿が、東京に住んでいた私にはカルチャーショックでした。そういったところが地域の宝ではないかと思えます。復興10年を迎えて次に向かっていくときに中越大震災の経験がすごく生きてくると思えますし、先ほど話の出た地域の宝になっていくと思えます。私自身、生きる力を養いたいと思って移住してきました。東京にいたほうが便利ではあったかもしれないですが、子どもたちにも生きる力・たくましさを身につけてもらいたいと思って長岡までやってきました。大雪など大変な面も多いですが、人の温かさやたくましさも長岡の誇れるもので、それが交流につながって、移住者にもつながってくるのではないかなと思っております。</p>
<p>委員</p>	<p>長岡にずっと住んでいて、自然との共生が大事だと思っております。中越大震災のときは本当に大変な状況でしたけれども、もう翌日には自分たちで地域がまとまって食料を確保し、男性は薪とり、女性は集まった食料で調理するなど、スタート時点で行政に頼らず自分たちで生きる取組をしていました。やはり自然との共生、特に長岡は山があって海があって川が流れている、その自然との共生をうまくやっていければと思っております。</p>
<p>委員</p>	<p>資料1の策定の考え方のところ「現在の施策を評価し、次の計画に結び付けていくことが非常に大事」とありますが、これは当然のことだと思っておりますのでお願いがあります。ぶら下がっている各施策に対して、どこまでもっ</p>

<p>政策企画課長</p>	<p>ていきたいのかという指標、具体的には最新の数値を洗い出していきたいです。それがこの計画の中で一番必要であり、問題であり、課題です。その課題を乗り越えるための方策を考えたいと思っています。</p> <p>もう一点は、この策定の共通の視点というのを長岡市の柱としてしっかりと上に挙げておいて、その下に序章・1章という計画のつくり方、共通の視点というのをしっかりと持ってつくっていただきたいというのが私の希望です。</p> <p>今回の計画を振り返る中で指標はいま整理段階ですが、今後何らかの形でお示ししていく予定でございます。二点目の構成に関しましては、共通の視点を置くことについてのご意見を踏まえて検討し、次の次期総合計画のたたき台をお示しする際に、またご意見をいただきたいと思っております。</p>
<p>委員</p>	<p>現在、後期計画の施策の評価の整理を進めているところだとのことでした。いま私の手元に平成23年1月の「まちづくりアンケート結果報告書」がありますが、これからの10年の計画をたてるときに後期計画の施策がどうであったかということの評価する一つのものさしとして参考になるだろうと思います。このようなクロス集計というのが行われるのでしょうか。また、中を見ますと例えば「長岡市全体で良いところ・好きなところはどこですか」という質問に対して最も多いものとして「豊かな自然」「歴史と伝統があるところ」「美味しい食べ物が豊富にある」と答える人は20代から80代までほぼ同じ傾向を示していますけれども、「交通の便がよい」というのは20代では13%しかいないのに50代以降になると30%くらいになります。なぜこういった違いが出てくるのでしょうか。「上下水道ガスなど基幹的施設が整っている」も20代が14%で50代・60代になると60%くらいになります。データ自体も大事だが、なぜこういう違いが出てくるのか、若い方が知らないだけなのか、もっと違うところに利便性というのを求めているのか、そういったものがわからないと参考にならないと思います。もしこういったものを出されるのであれば、ぜひそういうところまで分析していただけるとありがたいです。</p> <p>長岡市の人口推計が前回の資料で出ていますが、健康寿命と本当の寿命があってかけ離れています。お年寄りが「生きがいを持って住めるまち」と言ったときに、「生きがい」とは何か、例えば団塊の世代はどこまで健康でいられるのか、健康でなくなるときには社会福祉施設に入ったりする形になるが、将来の高齢人口の中に、まだ社会のお手伝いをできる人がどれくらいいるのか、社会福祉施設や家庭や地域でサポートしなければならない人がどれ</p>

<p>政策企画課長</p>	<p>くらいいるのかをある程度推計しておくのは、非常に大事なことなのではないかと思うので、できればそのようなデータを出していただけるとありがたいです。</p> <p>まず一点目のアンケート調査の実施、またクロス集計の実施につきましては必要な範囲で資料として提出していきたいと考えております。今後、アンケートを実施する場合には、アンケートを実施する段階で、効果的な分析ができるような設問の設定とし、結果が活きるようにしたいと思います。</p> <p>二点目ですけれども、高齢人口の中にもまだ元気でおられる方とそうでない方の割合の人口の推計というのはある程度可能かと思っておりますので、今日以降検討し、できたら次回以降、あるいは委員への資料提供でお示ししたいと考えております。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほど地域の宝という話がありましたが、11市町村が合併して海あり山ありという地域の特性があり、例えば雪一つとってみても多いところ少ないところとある中で、それぞれの地域の方が歴史や伝統・文化などに誇りを持って暮らしていくためには、それぞれの地域に見合った地域目標のようなものが必要なのではないかと感じます。現行の資料4に教育・文化・福祉・健康・産業・環境・生活・都市基盤とあり、もちろんこの切り口も大事だと感じますが、それとはまた別の観点から見て11市町村の地域の方々のそれぞれに見合った地域目標があってもいいのかなと思います。</p>
<p>政策監</p>	<p>合併した11市町村の地域の特色の出し方・あり方の記述の仕方については、11市町村それぞれに書くという方法、海岸部・平野部・中山間地くらいに分けるという方法もございまして、何年たっても11市町村という印象を与えるやり方がよいのか、外から見たときに一つのハーモニーになっているという出し方がいいのか、まだ我々も議論しております。おっしゃっている意味はもちろんわかりまして、自然も歴史も違うそれぞれの地域の人が誇りを持ってその地域で暮らせるような目標・記述が欲しいというご趣旨かと思っておりますので、検討させていただきます。</p>
<p>委員</p>	<p>長岡市は医療の質が全国からみても素晴らしいまちだという視点が抜けていると思います。救急ひとつをとってみても、98%は長岡の中で完結し、たらいまわしはほとんどありません。長岡市は素晴らしい医療体系を持っているまちだということを「住みやすいまちの中にぜひ入れて欲しいと思います。今後介護に関しても在宅医療に関しても、よりよい体制をつくっていか</p>

<p>市長政策室長</p>	<p>ると思います。また、産業について、人口が25%減少する前提で、どういう大きな構想を持っておられるか、どのようにもっと発展させたいのかといったことについて、しっかりした方針を打ち出していくべきだと思います。</p> <p>まちでも国でもそうですが、産業がなくて人がいなければ、そのまちや国が衰退するのは明らかなので、子育てをして人を増やしていくために、まず産業を興すという考え方をもち持つべきです。都市間競争の中で、そのような政策をまちがやるのか、他から集めてくるか、本来はそれを達成するために全国全員がそのような体制で臨めばよいのですが、そういうわけには行きません。都市間競争を前提に考えれば、いかに住みやすいまちか、いかに産業があるまちか、ということに基本的なことをおいて、それに派生する問題を考えていけばいいと思います。</p> <p>もう一点、私は小児科医なのですが、社会保障費における老人と子どもの比率というのは、10年前は8：1だったが今は19：1です。この状態で子育てをうまくやって人口を増やしていこうということがまず難しいのではないかと思います。もっと子どもに対する考え方をもちたいと思います。</p> <p>長岡の医療が非常に優れているということを今まで記述しておりませんでしたので、これからは入れていきたいと思います。また、人口推計を把握した上で、どういった政策ができるか、どういう骨太の政策を入れていくか、今回の計画の中に組み入れていくかを議論していきたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>第6期の高齢者の福祉計画を立てるにあたって皆様の実態・要望等をまとめる中で、先ほどお話が出たように、健康寿命をいかに延ばすかが一つの焦点になってくるかと思っています。65歳以上の17～18%が介護を要する現状がある中で、いかにそうならないかということで予防の考え方があると思います。予防にいかに力を入れていくのが大事だと思っています。</p> <p>また、福祉は福祉、医療は医療、地域は地域ではなくて、地域で包括的に支え合う部分が非常に必要になってきます。資料3に「みんなで支えあい、誰もが安全に安心して暮らせるまち」という中に「ともに」という言葉を入れると、災害のときにも、また地域の中で大変なときにこの言葉が活きてくるのではないかと思います。</p> <p>また、伊勢崎に何度か足を運んでおりますが、伊勢崎市と寺泊は友好都市でありまして、寺泊に海の家があって、小学校・中学校などのときに来てくださる人が多くいたが、それだけでなくその次につながるように、家族全体が海に行こう寺泊に行こうとなって欲しいと思います。様々な都市との交流を洗い直しながら、もっと観光を光らせると良いのではと思っています。</p>

<p>委員</p>	<p>私の住む地域でも高齢者がかなり多いのですが、施設に入ろうとする人は少ないです。入らなくても一人で元気に暮らしていけることを地域では目指しております。また災害のときも交通のルートができなかったとき、高齢者の方々に助けていただいたことがたくさんあります。高齢者が皆で元気にいられるように努力するといった場所が少ないのではないかと感じています。お茶を飲みに行こうと思っても居場所がないような状況は良くありませんので、計画の中に盛り込んでいただければと思います。</p> <p>次に子どものことです。長岡市では3人目の子どもは保育料も無料なのですが、地域に住み続けるには住宅の問題が出てくるとお母さん方が言うておられます。私たちの住む地域をベッドタウンにしたいと思っておりますが、子どもたちが小学校に上がる頃に、親が年齢制限によって若者向け住宅から出なければいけなくなり、市の中心部に近い方に土地を買って地域から出て行ってしまいます。そこに子どももついていき、おじいちゃんやおばあちゃんも一緒に連れて行ってしまいます。自分が現在暮らしている地域への愛着を育むために、「何が地域の宝だろう」と子どもたちと一緒に考える取組を行っておりますので、子どもたちが結婚し子どもを産むときに、他の県や市に行かずに地域に留まってくれるような住宅政策についてもよろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
<p>委員</p>	<p>いま政府が進めている地方創生について、すでに自治体では関連の方針が示されて計画を作成しなければいけない段階だと思います。総合計画とはスタンスが違いますので目指すところも違うとは思いますが、少子化など共通の課題も多くあるはずなので、どのように進めていくのか伺いたいと思ひます。</p> <p>また、将来像を描く中で、今までの価値を変えないと豊かさは実感できないと感じています。地域の宝はないものねだりをして仕方がないので、今あるものを未来に向かって発信していくべきだと思います。自慢できる長岡をつくるのが大事で、長岡花火以外にも光っているものはいっぱいあると思ひます。それを見つけ出して計画の中に入れていくという視点が大事だと思います。</p>
<p>政策企画課長</p>	<p>まず一点目の地方創生に係る地方版総合戦略は平成27年度中に各市町村が策定すべきものとして国に定められたものです。総合計画については、いまは策定が必須ではございませんので、策定の期間、もちろん作成するか否かも含めて、市町村によっては全部の分野を網羅する計画であっても良い</p>

	<p>し、重点的なテーマに絞ってつくっても良いでしょうし、あるいはつくらないという判断をする自治体も出てくるかと思えます。一方、地方創生の地方版総合戦略につきましては、人口減少対策を今後進めていくための計画であって、計画期間は5年間、国の示す方針に基づいて新潟県の計画との連携をとりながら策定を進めるものであります。調整していくところが多々出てくるかと思えますので、私ども政策企画課が事務局として地方版総合戦略を担当する予定です。いま、国が自ら各市町村をブロックに分けて説明会を実施しているところであります。私ども長岡市は2月4日に富山市で開かれる説明会に参加したいと思っております。</p> <p>二点目の、未来志向型で自慢できる長岡市ということについて、総合計画と調整をしながら、また委員の皆様からも意見を聞く機会を設けながらということも考えております。消極的な計画なのか骨太の計画にするのか、将来を見据えて大きい枠組みを捉えた上で、市民の方が実感できるような未来志向的な柱や目標の計画をつくりたいということで私どもも検討しております。第3回以降により具体的なものを示したいと考えております。暗い話題だけでなく明るい目標をつくりたいということで考えていることは同じです。</p> <p>皆様の意見を聞かせていただいて、かなり子どもたちや若者という言葉が多く出ていて良いと思えました。その中でも思い切った政策を今回掲げてはどうかと思えます。ビジョンなのか行動計画なのか二つあると思いますが、まず大きなビジョンをまとめなければいけない中で、思い切って政策の中に子どもが主役となるようなビジョンを持ったらどうだろうと思えます。専門分野以外に長岡市の歴史などを教えるだけではなく、住みやすさ、ずばり家計に優しい、お嫁に行くなら長岡というようなことを、もっと学校で教壇に向かっていくときにしっかり教えておかないと聞いてくれないと思うので、授業の中に取り入れて欲しいと思えます。それが産民官一体となって流通していく情報の流れではないかという意見です。また、タウンミーティングでもいいですし、思い切ったことを若者と行政が同じテーブルでミーティングできるような場を行動計画の中にしっかりと入れてもらいたいです。ビジョンとしてそういうことをやる長岡市にして欲しいです。多くの流動的な学生が戻ってくるといったことが極端にできるような施策であって欲しいと思えます。</p>
委員	
委員	<p>私は「子ども・子育て支援事業計画」に関わっておりまして、応援するだけでなくみんなが子育てをするという意識に転換しながら自分たち一人ひ</p>

<p>委員</p>	<p>とりが主役だという気持ちでこの計画をつくっております。資料1の「より住みやすいまちに向けて」というところで「県内の至る場所で、廃校になる学校や、空き教室がある」という話を受けまして、いま学年に1クラスで、小学校で6クラスしかないという状況です。参観日などにお邪魔しますと、空き教室が大変多くて、もちろん普段も使ってはいると思いますが、空き教室は地域の財産なので、誰が入ってもいいという気持ちで、シニア層も良い知恵を持っているので、それをどんどん発信してもらって、その地域で独自に使わせてもらうようにしたら、もう少し違う取り組みができるのではないかと思います。私の地域の先日の取り組みでは、小学校の子どもを呼んで高齢者と子どもの交流会をしました。お年寄りが喜ぶのは当然ですが、子どもたちもすごく喜んで、1時間ほどの時間でしたが写真を撮ったり、「また来たい」と子どもたちもとても喜ぶ取り組みとなりました。</p> <p>11市町村が一緒になって、地域独自の宝も大事にしつつ、一方で横のつながりで情報連携も大事にしていきたいです。</p> <p>後期基本計画の際に、「民間企業を活用していく」もしくは「長岡市の市政に民間視点を取り入れてやっていく」という話があったと思いますが、それは現行の計画にほとんど出てきていません。「市民との協働」という中に含まれているのかもしれませんが、様々な現状・課題を抱えている中で民間を積極的に活用しなければ、長岡市の発展・活性化はないのではないかと思います。長岡市の行政の方は発想力も豊かですし、市長の強いリーダーシップのもとで事業を推進されているので、民間の影が薄いということもあるかと思います。やはり民間の力を活かすということを次期計画に盛り込んでいただきたいです。また民間を活用するためには規制緩和を積極的に行わなければ地域は活性化されず、地方創生は成し遂げられないと思います。</p> <p>もう一点は、合併10年ということで、合併を検証する中で「地域」という言葉が出たり「旧市町村」という言葉が出てきたりしますが、合併した地域は同じ長岡という認識があつて、それを言っていると長岡はいつまでも一緒になれないと思います。長岡花火は全市が自分たちの誇りだと思っていて、子どもたちからすると、合併した地域だからという話しではないと思います。栃尾も川口も寺泊も山古志も小国もすべて、子どもたちにとっては同じ長岡だが、今までの話は視点・目線の年齢が高いと感じます。将来の計画ではその目線をもっと下げて、子どもたちのことを考えながら策定できたらいいのではないかと思います。</p>
<p>市長政策室長</p>	<p>最初の質問にありました民間との協働という点ですが、前回の計画の中に</p>

委員	<p>「市民協働」という言葉が入っておりまして、今日の資料4の中でも序章の中に「市民との協働の推進」、産業・観光などいろいろな面で協働というのがキーワードとなっております。すべてこの中に含まれているものと考えられます。新しい計画の中でも産官学民すべての立場の人たちが一緒になってつくるという視点は第一に考えなければいけないと思いますので、共通の視点に取り入れてもらえれば良いかと思いますが、また今後つくっていく上で、皆様と話し合っ決めていければよいと思っております。</p> <p>合併して10年、20年では一体感が出てこないかもしれません、前の前の昭和の大合併のときもそうだったかもしれません。ただ10年経ったわけですから、では次の10年でいかにしたら皆がもっとこの地域をオール長岡だと言えるような考えができるかということがこれからの計画の中でも大事だと思っておりますので、必ず書き込んでいきたいと思っております。</p> <p>長岡市でも高齢化が進んでいく中で、施設の充実を図るのではなく、在宅での看取りということも全国で様々な取組をしているということを見聞きしておりますので、それを長岡でも目指したいと思っております。介護保険は国の政策で動いている部分がありますのでまったく切り離すことはできませんが、それだけではなくて、長岡独自の例えば先ほど話のあった「できるだけ施設には入らないで」といった特性などを活かして、ただ単に大きな施設や地域包括センターなどを充実させるだけでなく、在宅を希望されるお年寄りには地域で支えるシステムをつくれればと思っております。先ほどから地域の宝という話が出ていますが、例えば高齢者が元気で自分たちでなんとかやっっていこうという、培ってきた生活スタイルそのものが宝であり、それをその地域だけのものにするのではなくて、他の地域でも活かせるのではという視点を持って、縦割りになりがちなところを横の連携を大事にして推し進めて欲しいと思っております。</p> <p>また、「まちづくり市民研究所 第1期報告書」を拝見しました。平成27～36年度の新たな10年で「ながおか防災を考える日」を始動し、みんなで作る防災教育体制についての素晴らしい報告書でした。今日の皆さんのお話の中に防災というテーマが出ませんでした。震災から10年たって一区切りの先の10年を考えたときに、子どもたちがどこで暮らすことになっても、この長岡の地で育んだ災害の中を生き抜く力でまず自分を守り、あるいは他人を思いやって他の人を助ける、という防災の視点は地域福祉につながってくるものだと思います。今まで培ってきたものでも発信できるものはたくさんあると思うのですが、実際に震災を体験していない若い世代に向けた防災の教育と、それを地域に向けて福祉コミュニティにつながるような取り組みに</p>
----	--

<p>委員</p>	<p>結び付けて欲しいと思います。</p> <p>合併して初めての総合計画だと思います。それぞれの地域の自立や全体の一体化もとても大切なのですが、これだけ多様な地域が一体となったことの良さをもっと活かせる計画だと良いと思っています。それぞれの地域が独立しているのではなくて、お互いの関係やお互いの価値を確認し合えた10年だったと思います。いろいろな人たちがいろいろな思いで交流できることになりました。それぞれの地域がそれまでなかったパズルのピースを埋めているという考え方を持つべきだと思います。</p> <p>二点目に人口減少の話で、地方創生で人口減少をどうするかという対策を課せられていると思いますが、子どもの生まれる数に関しては手を打つのが10～15年遅いという認識を持つべきです。私の世代は同級生が200万人ほどいますが、今の大学生は100万人強しかいないと思われま。いくら合計特殊出生率を上げて、母数が多くないといけないのでそれを踏まえた上で、どうするかを考えなくてははいけません。少しでも人口減少をとどめようと思うと、子どもを持つ人たちが少しでも多く長岡に住んでくれるということが重要で、そのとき働き場が大事だということで誘致をしてきたけれどもそれが成果を挙げていないこともある意味大きいとは思っています。私自身も小さい子どもを抱えているので、長岡の子育ての環境は満たされていて助かっていますが、大学に進学させるという事が唯一のネックになっています。東京の大学に進学させようと思うと、下宿費用などの経費が非常に大きく、それだけがネックとなっているので、地方で何とかできないかなと、地方は戦略的に何かできないかなと思っています。ただ、大学の入学試験は今後大きく変わります。数年後にセンター試験は廃止され、学力重視でないため予備校で受験勉強をして大学に入るというプロセスはなくなります。一方で、いろいろな経験をしたり社会と接点をもって培ってきた経験というのが重視されるようになります。いまの東京の学生の7割は首都圏出身で、実は彼らは金太郎飴のような人が多いのではないかと思います。そうなったとき、地方で暮らして東京に出て行く人のオリジナリティ・独創性はきっとあって、そこを教育の中で育むことで、長岡市はとても魅力的な高校までの生活が送れる場所になるのではないかと思います。そういった戦略的な子育てや大学進学を考えると、可能性が見えてくるのではないかと思います。</p> <p>最後にもう一点、地方創生がいくところまでいくと人口再配置という話が出て、東京にいる人を地方にとなった場合を想定して、先手を打つべきではないかということです。先ほどいくつかの話がありましたが、こちらにはいろいろなものに恵まれているのでお年を召されても、体を動かしながらいき</p>
-----------	--

委員	<p>いきと暮らせる環境が整っています。だから介護保険の世話になる前に、早めにこちらに来て暮らしていける状況をつくるべきだと思います。厚生年金をもらっている人の可処分所得を長岡のまちなかに落としてもらうことで地域内経済も潤います。そういったターゲットと戦略を考えながら資料を整理するといいいのではないかと思います。</p> <p>熱中！感動！夢づくりという教育があることに私自身が感動しました。しかし、子どもが熱中の授業の際に、あまり心がこもっていなかったことがありました。こちらが子どもたちに感じてもらいたいと思っているものと、実際に子ども自身が感動しているのかということにはギャップがあると思います。感動というのは「感じて動く」と書くので、心が感じないと本当の意味での感動ではないと思います。</p> <p>「ともに」という言葉を付け足して欲しいという意見がありましたが、私も賛成です。今までの10年が「自立して暮らせるまち」を柱としたのであれば、この先10年は「ともに暮らしていけるまち」が理想かなと思います。</p> <p>「一人ひとり」という言葉はあちこちに出てきますが、本当に一人ひとりを考えてもらっているなど市民が実感するためにあちこちの柱に「ともに」というキーワードを入れることで、市民の皆様に伝わっていくのではないかと思います。</p>
委員	<p>長岡に大学がこれだけある中で、もっと大学を活かして若者を増やすという政策をもう少し考えても良いと思っています。空き教室に芸術家を呼び集めることはできないでしょうか。市として助成をしながら、長岡に来たら大学のいろいろな施設を利用できる、先生にも相談できる、鑄造の技術や染色の技術といった特色を持つ企業などがあるので、そういう人たちに学問ではなくて、体で覚えたものを教わりながら発信もしていけたら、大学を活用した素晴らしいまちになると思います。そういう中で若者でも、今東京で頑張っている人でも呼び込めたら素晴らしいまちになると思いました。</p> <p>人口減少については、子育てをしている人にとって長岡にはこれだけ有利なものがあるということをもっと発信できたら良いといつも言っております。いろいろな意見があると思いますが、考えていただけるとありがたいです。</p>
副委員長	<p>第1回目の冒頭で市長が挨拶され、「市民に対して明るい目標を示したい、特に子どもたちや若者に対して明るい目標を示したい」とおっしゃっていましたが、今日皆さんの発言をお聞きしていて、まさしくそのような方向での</p>

副委員長	<p>発言が多々あったと思いました。ビジョンを示す方向で議論が進んでいけばと思います。「長岡は良い」「もっと良くなる」「もっと良くする」ということを、いかに市民が納得して一体感を持って進んでいくか、ここで知恵を出すということだと思っています。今日、多々「長岡は良い」ということに関して指摘があったように思いました。子育て環境が良いとか医療・介護の政策が行き届いているなどの意見がありましたが、やはり産業や仕事、若者にとっての職場とか、そういうものに魅力があるという発言がなかったと思います。それをもっと強くする、活性化するという意見はありましたけれども、もっと若者にとって長岡というエリアは職場として、働く場として魅力があるということもぜひ訴えていきたい。もしそれが不足しているのならば「これからこうして魅力を高めていく」ということをもっと伝えなければならないと思いました。</p> <p>ぜひ大学の活かし方というのを皆様で議論していただきたいと思います。たとえば長岡造形大学ですとデザインの大学ですから、デザインというのを通じて企業の商品をいかに魅力的にできるか、といった点でお手伝いできるのではないかと思います。</p> <p>前回、長岡は多様性に富んでいるということを申し上げました。合併地域という言葉で皆さんおっしゃってましたが、11の市町村が合併して一つの長岡になったということ自体がこの市の多様性であり、この地域全体を魅力的にしている、それだけ多彩な要素をもっていると理解いたしました。多様であるということはバラバラであるということではなく、それが連帯しうまく活かしあえばものすごく魅力がアップするという強みであると思いますので、一体感を持った多様性が強みだということ、うまく打ち出していけたら良いと思っています。多様性といったときに、豊かな自然、田園・里山・海、そうしたものが中心市街地・都会的なものと近いところにあるということが必要だと思います。そのためには、中心市街地の都会的な、都市的な魅力にもっと磨きをかけて、若い人たちがそこで楽しく居心地よく過ごすことができるようにしていかなければいけないと感じています。</p> <p>市民の方々からは、ある種の精神的な気高さのようなものを感じております。お祭り・行事一つに取り組む姿勢自体も、私が今まで経験してきた他の地域と違うように感じます。それはきっと歴史の深さが築きあげたものだと思いますので、ぜひそうした市民の精神的な気高さをベースにして、多様性を一体感のもとに磨き上げるような長岡であって欲しいと思います。</p> <p>私は計画づくりの話をさせていただきます。 まず一つは、総合計画は都市経営をどのように行うかという市における憲</p>
------	---

法のようなもので、本来は一番上に行財政がありますが、それは語らなくて良いと思います。大学が国立から特殊法人になってもう十数年になりますが、文部科学省は各大学に渡す運営交付金を毎年1%ずつ減らしてきました。そうすると11年前の予算と比べると、11%減らされております。各大学はそれではやっていけないので、外部資金とって企業といろいろ協力したりしています。

人口が減るとするのは当然所得税が減る、また競争力がなくなり必要な土地も減るので固定資産税が減る、ということを考える必要があります。産業に関しては頑張れば維持できるかもしれませんが、歳入というのは夢物語のように増えるわけではありませんし、なおかつ国が地方交付税をどんどんカットしていくのが目に見えています。そうすると、昔つくっていた右肩上がりの計画ではなくて、今後のことをきちんと考えた計画にすべきという前提があります。そうするとこれから打って出る投資的経費がどうしても減っていきませんが、だからといって何も行わないということではなくて、夢は描かなくてはなりませんので、ここで議論すべきなのは、その中で何に重点を置いていくのかということなのです。資料4は5年前につくった後期基本計画であって、これからは当時とは違う重点の置き方を考えなければならないと思います。

資料4の各章はそれぞれの部会が担当していて、市の行政のすべてを網羅するようになっております。今日ここにお集まりの皆様はそれぞれの分野の専門家だと思いますが、ひとつづくりに関わっていらっしゃる方が多いと思います。都市政策をひとつづくり・ものづくり・まちづくりの3つに分けるとすると、ひとつづくりは教育・文化、全部ではないですが福祉健康の一部も含まれます。ものづくりは産業で、福祉健康はこちらにも含まれます。まちづくりは生活都市基盤や環境の一部があります。今回産業について発言された方が少ないのは、産業に直接関わっている方が少ないからだと思います。ひとつづくり・ものづくり・空間をどうつくっていくのかという狭い意味でのまちづくりをバランスよく考えていかなければならないと思います。資料2には、現行計画でできなかったことは何なのかが何も書かれておりません。なおかつ「長岡市の現況整理」は狭い意味のまちづくりには一切触れられておらず、ひとつづくりとものづくりに少し触れている程度、「現行計画の成果」にはまちづくりに少し触れられています。先ほど発言がありましたが、指標のチェックを行って、PDCAを行うことなしには計画づくりはできません。何がうまくいって何がうまくいっていないかをきちんとチェックした上で、資料4にある施策を点検し、継続すべきもの・その中でも増強すべきもの・縮小していいもの・政策的判断で廃止する・新規で立ち上げるべきものと切り

委員	<p>分けていかなければならない、と思います。</p> <p>長岡の悪いところや弱いところは何なのか、地域政策や経営戦略などでも使われる SWOT 分析を用いたらどうでしょうか。Strengths が内的要因の自分の強み、Weaknesses が自分でなんとかできるかもしれないが抱えている弱み、Opportunities は外的要因で自分たちではなんとかできないが良いところ、Threats は外的要因の脅威です。長岡はすごく良いところで Opportunities も Strengths もあるが、弱みもいっぱいあります。夢を描いていく上で、Opportunities と Strengths を強めていくと同時に問題点も解決していかなければなりません。ベーシックに行う施策と打って出るノンベーシックの施策を切り分けるべきで、そのうちの一部分が夢を描く将来像になるということにしないと、結局皆さんの要望を何も取り入れられないということになりかねないと思います。</p> <p>私が一番気にしているのは、今までの評価はそれぞれの縦割りの部分に張り付いて出てくると思いますが、これから今までにない施策をするときに、今後はもっとフレキシブルに対応して欲しいということです。もっと横断的な課題には縦割りではない方法を考慮して欲しいです。どうしても、決められた部や課にしてしまうと、本来できるはずのことができなくなるということがあるはずです。事務局にはその点を留意して欲しいと思います。</p>
委員長	<p>ご意見ありがとうございました。</p> <p>それでは事務局にお返しします。</p>
政策企画課長補佐	<p>本日は貴重なご意見をありがとうございました。</p> <p>(第3回の開催日程を確認)</p> <p>これにて第2回長岡市総合計画策定委員会を閉会いたします。ありがとうございました。</p>